

(別紙様式)

第十一採択地区教科用図書調査研究担当指導主事による調査研究の結果報告
種目(教科等)【国語】

項目	書名 新編 新しい国語 (東京書籍)
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり	○「伝えあう力」の育成を図るために、特に「話すこと・聞くこと」では、「話す」「聞く」「話し合う」「説明・報告」の四つの系列に分け、計画的・系統的に学習できるよう構成している。 ○伝統的な言語文化を学ぶために、教材「日本の言の葉」を1年は1か所、2年以上は2か所設けている。また、高学年では、古文、漢文などの古典教材を扱っている。
特色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○単元末の「言葉」「漢字」欄や「漢字の練習」「言葉の広場」を配置し、漢字の習得を図り、語彙を蓄える工夫をしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、始めにねらいを焦点化した教材を設け、最後に総合的な力をはぐくむ教材を設定している。また、「つながる」「ひろがる」を示し、既習事項を活用して多面的に読むことができるようにしている。 ○「読むこと」の領域では、単元のでびきに、ねらいに則した学習課題(活動目標)を明示している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○巻頭「言葉の学習を進めよう」において、学習の進め方を提示することで、見通しをもって学ぶことができるようにしている。単元ごとに「てびき」を掲載し、学習の手順や学び方を示すことで、学ぶ意欲を高めている。</p> <p><言語感覚を養うための工夫> ○入門期の教材は、子供が野原で遊ぶ様子が描かれ、会話が想像できるように示している。 ○単元の終わりに関連図書を示すとともに、「本は友達」の単元では、著名人の読書体験を紹介し、継続的な読書活動を促している。 ○「言葉の世界」では、学習場面、生活場面などの状況に応じた言葉の使い方について紹介したり、ふさわしい言葉を選択したりする教材を取り入れている。</p> <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫> ○伝統的な言語文化については、「日本の言の葉」を設け、音読や創作活動を通して古典などに親しむ教材を取り入れている。「日本語のしらべ」として、季節の歌の歌詞を取り上げている。</p>
資料	○領域ごとの学習内容一覧について、カットを利用して掲載している。 ○図書リストは、読書単元の後に関連づけた本を表紙写真と共に紹介している。 ○巻末「読書の部屋」に補充作品として物語を掲載している。 ○新出漢字一覧は、単元ごとに画数・音訓・筆順・用例を掲載している。 ○既習漢字は、五十音順で音訓・用例を掲載している。 ○1～4年は上下巻の二分冊、5・6年は合冊で構成している。
表記・表現	○分ち書きは、2年下巻までである。
総括	○基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るために、「つながる」欄により、既習の内容を確認するとともに学習する内容の系統性を示している。 ○身に付けたい力が明確にわかるように、「言葉の力」を単元末に明示し、まとめから他教科や実生活に活用できるよう「ひろがる」を設けている。 ○「漢字の練習」のページを設け、確実に力の定着を図り、1学年下の配当漢字の書く練習ができるようにしている。 ○課題解決的に学習を進めるために、学年冒頭の「国語の学習を進めよう」は効果的であり、一年間の学びの見通しをもち学習を主体的に進めることのできる所沢市の学び創造アクティブプランに適している。

(別紙様式)

第十一採択地区教科用図書調査研究担当指導主事による調査研究の結果報告
種目(教科等)【国語】

項目	書名 みんなと学ぶ 小学校国語 (学校図書)
教育基本法、学校教育法の下での小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○「伝え合う力」の育成を図るために、特に「話すこと・聞くこと」では、「学級作り」「スピーチ」「話し合い・討論」「プレゼンテーション」の四つの系列に分け、計画的・系統的に学習できるように構成している。 ○伝統的な言語文化を学ぶために、発達の段階に合わせて、昔話、神話、短歌、俳句、古文、漢文などの古典教材を扱っている。
特色	<p data-bbox="414 571 1420 604"><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p data-bbox="414 604 1420 660">○単元末や巻末に領域ごとのポイント「国語のカギ」を示している。「言葉のきまり」や「漢字の部屋」等を配置し、語彙が増すように工夫している。</p> <p data-bbox="414 660 1420 694"><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p data-bbox="414 694 1420 750">○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、学習したことを活用しながら論理的に思考し表現できるように手本となる作文例やスピーチ例などを掲載している。</p> <p data-bbox="414 750 1420 806">○「読むこと」の領域では、学習のてびきの中に「表現にひらく」を設け、学習したことを活用できるようにしている。</p> <p data-bbox="414 806 1420 840"><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p data-bbox="414 840 1420 940">○「めあて」や「この単元の学習の流れ」で学習の見通しをもたせ、「学習のてびき」で学び方を示している。振り返りでは、学習を具体的に振り返らせ、活用したり次の学習や表現に生かしたりすることで学ぶ意欲を高めている。</p> <p data-bbox="414 940 1420 974"><言語感覚を養うための工夫></p> <p data-bbox="414 974 1420 1008">○入門期の教材は、動物たちの関わりが描かれ、そこから会話が想像できるように展開している。</p> <p data-bbox="414 1008 1420 1064">○単元の終わりに関連図書を示すとともに、巻頭、上巻、下巻に読書単元を設け、継続的な読書活動を促している。</p> <p data-bbox="414 1064 1420 1131">○「コミュニケーション」「メディアの目」では、一人一人のものの見方を広げたり、言葉を選んで表現したりする活動を取り入れている。</p> <p data-bbox="414 1131 1420 1164"><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <p data-bbox="414 1164 1420 1232">○伝統的な言語文化については、声に出して読んだり、情景を想像したりするなど、児童が伝統を身近に感じられるようにしている。「やってみよう」を設け、古典などに親しむ活動を具体的に示している。</p>
総括	<p data-bbox="414 1758 1420 1814">○学習用語や領域を各学年に掲載している。</p> <p data-bbox="414 1814 1420 1848">○図書リストは、読書単元の後以案内文と表紙写真を紹介している。</p> <p data-bbox="414 1848 1420 1881">○巻末に補助作品として物語文や説明文を掲載している。</p> <p data-bbox="414 1881 1420 1915">○新出漢字一覧は、単元ごとに画数・音訓・筆順・用例・学習ページを掲載している。</p> <p data-bbox="414 1915 1420 1948">○既習漢字は、五十音順で音訓を掲載している。</p> <p data-bbox="414 1948 1420 1982">○各学年を通じて、上下巻の二分冊となっている。</p>
表記・表現	○分かち書きは、2年上巻途中までである。

(別紙様式)

第十一採択地区教科用図書調査研究担当指導主事による調査研究の結果報告

種目(教科等)【国語】

項目	書名 小学生の国語 (三省堂)	
教育基本法、学校教育法の下的小学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	○「伝え合う力」の育成を図るために、特に「話すこと・聞くこと」では、「話し合い」と「説明・報告」を中心的な教材として各学年で五つの系列に分け、計画的かつ系統的に学習できるように構成している。 ○伝統的な言語文化を学ぶために、音読・暗唱を学習の中心に据えた取り立て教材と関連教材とを設定している。また、高学年では、古文、漢文などの古典教材を扱っている。	
特色	内 容	<基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○各単元の直前に「新しい漢字を学ぼう」を配置し、例文を通して新出漢字の用法を学べるように工夫している。分冊「学びを広げる」では、同音異義語などを扱った、語彙を蓄える題材を掲載している。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、考え、まとめ、表現するための手順を分かり易く説明している。 ○「読むこと」の領域では、図や写真を読み取る活動取り入れた教材「プラザ」を各学年に配置し、場面や状況に応じて言葉を選び表現することができるようにしている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○巻頭の「〇年生で学習すること」において、学習の進め方を提示することで、見通しをもって学んだり、振り返ったりすることができるようにし、学ぶ意欲を高めている。 <言語感覚を養うための工夫> ○入門期の教材は、野原で春を見つけた子供たちが登校する様子が描かれ、展開を想像しながら学習できるようにしている。 ○単元の終わりに関連図書を示すとともに、「あまんさんの部屋」などのコーナーで、作家による読書紹介をし、継続的な読書活動を促している。 ○「言葉のポケット」では、言葉についての様々な教材を取り上げ、言葉について系統的に学べる単元を配置している。 <国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫> ○伝統的な言語文化については、音読・暗唱を中心とした教材と各領域と関連した教材を設けている。分冊「学びを広げる」では、古典などに親しむ資料を紹介している。
	資 料	○学習のめあてと領域との関連を各学年で掲載している。 ○図書リストは、案内文と表紙写真を紹介している。 ○分冊「学びを広げる」に補充作品として物語、説明文、文語調の文章を掲載している。 ○新出漢字一覧は、五十音順で画数、音訓、学習ページを掲載している。 ○既習漢字は、学習した学年ごとに五十音順で画数・音訓を掲載している。 ○1年生は、上下巻の二分冊。2～6年は合冊と資料としての分冊で構成している。
	表記・表現	○分かち書きは、2年途中までである。
総 括	○基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るために、単元のはじめに新出漢字を学習し、各教材の中で使い方を確認できるようになっている。 ○「覚えておきましょう」を設け、基礎的・基本的な言語技能の定着と他の学習への活用を図っている。また、巻末にまとめの一覧を設け、振り返りができるようになっている。 ○文字の確実な定着を図るために、1年生では五十音の重要性を音声言語と関連付けた学習を通して、主体的に文字を学ぶようにしている。また、3～6年生の巻末で「ひらがな・かたかな・ローマ字の表」と「ローマ字のきまり」を扱っている。 ○学習のてびきの中にある鈴のイラストのマークで示された「覚えておきましょう」は、他教科の学びや生活の中でも生かすことができる内容となっており、児童の学びを広げ・深めることができるため、所沢市の学び創造アクティブプランに適している。	

(別紙様式)

第十一採択地区教科用図書調査研究担当指導主事による調査研究の結果報告

種目(教科等)【国語】

項目	書名 ひろがる言葉 小学国語 (教育出版)
教育基本法、学校教育法の下の小学校教育指導要領の教科の目標とのかかわり	○「伝え合う力」の育成を図るために、特に「話すこと・聞くこと」では、「日常化をはかる」「スピーチ」「話し合い」「説明・報告」の四つの系列に分け、計画的かつ系統的に学習できるように構成している。 ○伝統的な言語文化を学ぶために、「文化」という項目を設けて、昔話、神話、短歌、俳句、古文、漢文などの古典教材を扱っている。
特色	<p data-bbox="255 896 383 940">内 容</p> <p data-bbox="255 1433 383 1478">資 料</p> <p data-bbox="255 1601 383 1646">表記・表現</p> <p data-bbox="255 1736 383 1780">総 括</p> <p data-bbox="414 627 1420 1635">○＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞ ○各単元に領域ごとのポイント「ここが大事」を示している。各学年に「言葉の使い方を考えよう」や「漢字の広場」「言葉の木」(付録)など、漢字の習得、定着や、語彙を蓄えることを意図した教材を掲載している。 ○＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞ ○「話すこと・聞くこと」の領域では、児童の興味・関心のある内容を題材として取り上げ、多様な場や形式を設定して、取り組むことができるようにしている。 ○「読むこと」の領域では、課題に応じた読みができるように、何のために読むのかを明確にし、「書くこと」の領域では、必要な学習を系統的に繰り返し取り上げて、活用する場を設けたり、読んだことをもとに想像して書く活動を取り入れたりしている。 ○＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞ ○単元のはじめに、具体的な言語活動を示すことにより、見通しをもち、学ぶ意欲を高めて取り組めるようにしている。穴あき加工やポップアップカード等を掲載している。 ○＜言語感覚を養うための工夫＞ ○入門期の教材は、動物たちが遊ぶ様子が描かれ、展開を想像しながら学習ができるようにしている。 ○単元の終わりに関連図書を示すとともに、学校図書の利用方法や情報収集の方法を提示し、継続的な読書活動を促している。 ○言葉の働きや使い方について学ぶ単元を各学年に配置し、具体的な場面や状況をもとにして、言葉を選んで表現する活動を多く取り入れている。 ○＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞ ○伝統的な言語文化については、「文化」の項目を設け、音読や創作活動を通して、古典などに親しむことができるようにしている。四季の言葉や歳時記等も取り上げている。</p> <p data-bbox="414 1377 1420 1579">○領域との関連や、言葉の特徴やよさを各学年に掲載している。 ○図書リストは、巻末折込に、テーマごとの案内文と表紙写真を紹介している。 ○上下巻の付録に、補充作品として文学作品、説明文を掲載している。 ○新出漢字一覧は、巻末資料前に画数、音訓、筆順、用例、部首、学習ページを掲載している。 ○既習漢字は、学年ごとに音訓を巻末資料前に五十音順に掲載している。 ○全学年を通して、上下巻の二分冊となっている。</p> <p data-bbox="414 1601 1420 1635">○分ち書きは、2年上巻途中までである。</p>
総括	○基礎的・基本的な知識・技能を習得を図り、活用するために、日常生活や他教科と関連して読むことから書く力をつけたり、話す・聞く力をつけたりすることができるようになっていく。 ○巻末の「この本で学ぶこと」で学習した内容を一目で把握したり、「言葉の木・星座」で言葉に関連付けて覚えたりできるようにしている。 ○特別支援教育の観点から表現方法を工夫したり、より多くの人に見やすいようにカラーユニバーサルデザインを採用したりと、子どもが学びやすいよう配慮している。 ○子どもたちの「学び合い」が、学習のさまざまな場面に位置づけられていることは、所沢市学び創造アクティブプランの学び合いの場面の、思考の可視化や、思考の操作化を行うヒントとなる。

(別紙様式)

第十一採択地区教科用図書調査研究担当指導主事による調査研究の結果報告

種目(教科等)【国語】

書名		国語 (光村図書出版)
項目		
教育基本法、学校教育法の下 の小学校学習指導要領の教科の 目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none">○「伝え合う力」の育成を図るために、特に「話すこと・聞くこと」では、「話す」「聞く」「話し合う」言語活動の中に「受けて返す」系列を設け、計画的かつ系統的に学習できるよう構成している。○伝統的な言語文化を学ぶために、全学年に民話や昔話などを聞いて楽しむ教材を位置づけ、高学年では、古文、漢文などの古典教材を扱っている。
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none">○単元名・リード文でめあて、学習活動を示し、各単元末の「たいせつ」で学習のポイントをまとめている。「言葉」や「漢字の広場」を配置し、漢字の習得と定着を図り、語彙を蓄えることを意図している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none">○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域では、「あなたは、どう思う」などを問い、児童が思考したり判断したりできるようにしている。○「読むこと」の領域においては、学習内容をもとに自分の考えを深めたり、交流したりするための活動を示している。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none">○各領域の「自分の考えをもとう」「ふりかえろう」において、自分の考えをもち、自分の言葉で学習を確認できるようにし、学ぶ意欲を高めている。 <p><言語感覚を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none">○入門期の教材は、大勢で友だちと遊ぶ様子が描かれ、挨拶や会話を想像できるように展開している。○単元の終わりに関連図書を示すとともに、「本は友達」の単元では、自分と本との関わりをふり返らせ、継続的な読書活動を促している。○「言葉の宝箱」では、一人一人が場面や状況に応じて言葉を選び、表現に生かせる活動を取り入れている。 <p><国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none">○伝統的な言語文化については、「季節の言葉」を設けている。言葉の響きやリズムについて、音読したり聞いたりすることで古典などに親しめるような教材を取り上げている。
	資料	<ul style="list-style-type: none">○領域ごとの学習内容一覧や言葉の特徴を掲載している。○図書リストは、巻末に案内文と表紙写真を紹介している。○巻末に、補充作品として物語や説明文を掲載している。○新出漢字一覧は、単元ごとに画数、音訓、筆順、用例、学習ページを掲載している。○既出漢字は、五十音順で音訓を掲載している。○1～4年生は、上下巻二分冊。5・6年生は合冊で構成している。
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none">○分ち書きは、2年上巻途中までである。
総括	<ul style="list-style-type: none">○基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るために、単元のはじめで単元目標を明確にし、身につけたい力を示して、見通しを持った学習が進められるようになっている。○「読むこと」で習得した知識・技能を「書くこと」で活用できるように、言語活動の手順を示すことで、つけたい力の定着が図れるようにしている。○巻頭「いつも気をつけよう・続けてみよう」による見通しと学習規律を含めた教材を掲載し、既習事項を振り返ったり、書いたりすることを繰り返し学習することで確実な定着が図れるようにしている。○単元冒頭に「活動の流れ」がフローチャートで視覚的に示されていることで、学びの見通しをもつことができ、主体的に学びに向かうことができる点において、所沢市の学び創造アクティブプランに適している。	